

平成22年度 事務事業評価

整理番号
14-1

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	04	01	06	01	01
細事業名		地域医療体制整備補助金				

担当部局	医療部
担当課等	担当課長の氏名
医療政策課	梅田 純市
	担当者の氏名
	梅田 和幸

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅲ 健やか安心都市	
	計画項目 (施策)	③ 患者本位の医療体制の充実	
	施策方針	1 地域包括医療の推進	
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	市民が安心して生活できるための医療環境を確保するため、民間病院、診療所に対し、施設整備等にかかる支援を行う。	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
		地域住民が安心して医療を受けられる環境づくり	

平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	地域医療に貢献する財団法人 丹後中央病院、特定医療法人 三青園 丹後ふるさと病院及び医療法人 愛心会 宇川診療所に対し、当該医療機関が施設、設備整備の際に借り入れた借入金の利子の一部などを補助した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	地域医療体制の維持に貢献することができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	26,675	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		26,675
事業費合計		26,675	合計		26,675

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進捗している(できている) ▲ 少し遅れている(少しできていない) × 遅れている(できていない)
	理由	地方の医療機関を取り巻く環境は厳しいながらも、対象となる民間医療機関のサービスは維持されており、概ね進捗できているものと考えられる。
	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか	
○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 削減の余地がなかった ▲ 少し削減の余地があった × 削減の余地があった 	
理由	診療報酬の引下げ等により、医療機関の経営環境は非常に厳しい状況となっている。社会的背景からすると増額も必要な状況にあるが、厳しい市の財政事情を考慮し、現状の予算規模を維持しながら支援をすることが妥当と考えられる。	

改善	事業内容の方向性	
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 現状維持 B 内容の見直し C 統廃合・休止・終了
	理由	国の医療費抑制策のもと数次の診療報酬の引下げ改定があるなど、医療機関の経営環境は非常に厳しい状況となっている。したがって、市内の医療提供体制を維持するために事業を継続する必要がある。
	事業規模の方向性	
	B	<ul style="list-style-type: none"> A 事業拡大 B 現状維持 C 事業縮小
	理由	国の医療費抑制策のもと、医療機関の経営環境は非常に厳しい状況となっている。社会的背景から考えると増額も必要な状況にあるが、厳しい市の財政事情を考慮し、現状の予算規模を維持しながら対象医療機関の経営を支援することが妥当と考えられる。

平成22年度 事務事業評価

整理番号
14-2

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	04	01	06	01	02
細事業名		救急医療体制強化補助金				

担当部局	医療部
担当課等	医療政策課
担当課長の氏名	梅田 純市
担当者の氏名	梅田 和幸

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅲ 健やか安心都市
	計画項目 (施策)	③ 患者本位の医療体制の充実
	施策方針	2 医療機関の充実と連携
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市民が安心して生活できるための医療環境を確保するため、市内の救急医療を担う民間病院を支援し、救急医療体制の維持・強化を図る。	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
		地域住民が安心して医療を受けられる環境づくり

平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	救急医療を提供している財団法人 丹後中央病院に対し、医療スタッフの当直手当等を補助した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	救急医療体制の維持・強化に貢献することができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	19	1,600	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		1,600
事業費合計		1,600	合計		1,600

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○	理由
	○	理由
	○	理由
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
○	理由	

改善	事業内容の方向性	
	A	理由
	B	理由
	C	理由
	事業規模の方向性	
	B	理由

平成22年度 事務事業評価

整理番号
14-3

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	04	01	06	01	03
細事業名		休日応急診療事業				

担当部局	医療部
担当課等	担当課長の氏名
医療政策課	梅田 純市
	担当者の氏名
	梅田 和幸

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅲ 健やか安心都市	
	計画項目 (施策)	③ 患者本位の医療体制の充実	
	施策方針	2 医療機関の充実と連携	
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか)	市民が安心して生活するために休日に応急診療が受けられる医療機関を確保する。	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
		地域住民が安心して医療を受けられる環境づくり	

平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	市民が安心して生活するための医療環境を確保するため、休日(日曜日・祝日・年末年始)における急病患者の診療業務を市内の民間医療機関等へ委託した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	休日に応急診療が受けられる医療機関を確保できた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	13	3,675	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		3,675
事業費合計		3,675	合計		3,675

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか		
	○	○ 進捗している(できている)	理由 休日において応急的な診療を受けられる医療機関を確保することができた。
		▲ 少し遅れている(少しできていない)	
		× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか			
○	○ 削減の余地がなかった	理由 自治体によっては、応急診療所を開設しているところもあるが、費用面はもちろんのこと、医師、看護師等のスタッフ確保は非常に難しい状況である。したがって、協力医療機関を増やし、業務委託で対応することが費用対効果の面で効果が高い。	
	▲ 少し削減の余地があった		
	× 削減の余地があった		

改善	事業内容の方向性		
	A	A 現状維持	理由 本事業については、過去の外部評価や市民アンケートにおいても高い評価があり、必要性が高い。市民が安心して生活するための医療環境を確保するためにも、引き続き事業実施する必要がある。
		B 内容の見直し	
		C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性		
	B	A 事業拡大	理由 受託医療機関が受け入れる患者数により一定検討する必要があるが、数年間で少しずつ引上げてきた経緯があり、当面は現状の予算で維持したいと考える。
B 現状維持			
C 事業縮小			

平成22年度 事務事業評価

整理番号
14-4

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	04	01	06	04	01
細事業名		医療確保奨学金貸与事業				

担当部局	医療部
担当課等	担当課長の氏名
医療政策課	梅田 純市
	担当者の氏名
	島田 香織

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅲ 健やか安心都市
	計画項目 (施策)	③ 患者本位の医療体制の充実
	施策方針	2 医療機関の充実と連携
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市の医療体制の充実を目的として、医師の養成及び確保を図る。	平成26年度事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 平成26年度に市立病院に勤務する奨学金を貸与した医師が初めて誕生する予定である。(1名)

平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 将来、医師として市立病院等に勤務する意思を有する者に対し、奨学金を貸与した。 貸与額: 年額240万円(一般診療科志望)もしくは年額300万円(産婦人科・小児科志望) 貸与人数: 4人(一般診療科3人、小児科1人)
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 大学の医学履修課程に在学する医学生4名に対し貸与を行った。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	21	10,200	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		10,200
事業費合計		10,200	合計		10,200

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○ 進捗している(できている)	理由 平成19年度から行っている事業であるが、平成19年度1名、平成20年度3名、平成21年度は4名に貸与を行った。医学生への貸与であり、実際の医師確保までは年数がかかることとなるが、順調に推移していると考え。
	▲ 少し遅れている(少しできていない)	
	× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
○ 削減の余地がなかった	理由 奨学金の額を、近隣市町村よりも月額5万円多い20万円(産科・小児科志望は25万円)と設定しているが、当市の立地条件等を考えると医師確保を進めるためにはやむを得ないものとする。	
▲ 少し削減の余地があった		
× 削減の余地があった		

改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 医学生等に対し奨学金を貸与するという事業の性質上、当分の間(10年程度)は継続して実施する必要があると考える。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	B 現状維持	理由 毎年度奨学金を5名から6名程度に貸与できるよう予算を確保するのが適当と考える。
A 事業拡大		
C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号
14-5

平成21年度予算	会計名称 一般会計	款 04	項 01	目 06	事業 03	細事業 01
細事業名	市立病院繰出金					

担当部局	医療部
担当課等	担当課長の氏名 梅田 純市
医療政策課	担当者の氏名 梅田 和幸

総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策)	Ⅲ 健やか安心都市
	計画項目 (施策)	③ 患者本位の医療体制の充実
	施策方針	2 医療機関の充実と連携
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市立病院の安定的な運営を図るため、市立病院改革プランを踏まえて一般会計から支援するもの。	平成26年度 事業の効果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入)
		市立病院の医療提供体制の充実と経営の安定

平成21年度 事業の実績	(何を対象に、何をしたか)	市立病院の運営を維持するため、必要な経費の一部を一般会計から病院事業会計へ繰り出した。
平成21年度 事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入)	市立病院改革プランに定めた経常収支比率(目標数値上回れば達成)目標97.7% 実績101.9% 市立病院改革プランに定めた職員給与費比率(目標数値を下回れば達成)目標60.2% 実績58.8% 市立病院の医療提供体制を維持し、地域医療の確保に資することができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
	28	839,500	財源内訳	国庫支出金	
				府支出金	
				起債	
				分担金・負担金	
				その他	
				一般財源	839,500
事業費合計		839,500	合計		839,500

評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか	
	○ 進捗している(できている)	理由 平成21年度の市立病院改革プラン、市立久美浜病院改革プランの数値目標はすべて達成できたが、市立弥栄病院改革プランの病床利用率の数値目標のみ0.8%達成出来なかった。
	▲ 少し遅れている(少しできていない)	
	× 遅れている(できていない)	
効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか		
○ 削減の余地がなかった	理由 診療報酬の引下げ等により、医療機関の経営環境は非常に厳しい状況となっている。引き続き経営改善と合わせて繰出金を増額する以外に方法がないため、健全経営のためには増額もやむを得ない。	
▲ 少し削減の余地があった		
× 削減の余地があった		

改善	事業内容の方向性	
	A 現状維持	理由 市立病院改革プランに定めた繰り出し額に沿って繰り出す必要がある。
	B 内容の見直し	
	C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	A 事業拡大	理由 市立病院改革プランに定めた繰り出し額に沿って繰り出すこととしているが、平成21年度から公立病院特例債の元金償還が始まっており、不良債務を発生させないためには、繰出金の増額が必要となる場合がある。
B 現状維持		
C 事業縮小		

平成22年度 事務事業評価

整理番号
14-6

平成21年度予算	会計名称	款	項	目	事業	細事業
	一般会計	04	01	06	02	01
細事業名		市立診療所操出金				

担当部局	医療部
担当課等	医療政策課
担当課長の氏名	梅田 純市
担当者の氏名	寺田 知博

PLAN	
総合計画 (前期基本計画)	基本方針 (政策) III 健やか安心都市 計画項目 (施策) ③ 患者本位の医療体制の充実 施策方針 2 医療機関の充実と連携
事業の目的	(どのような目的で事業を実施するか) 市立診療所の安定的な運営を維持するため、一般会計から支援するもの。 事業の效果目標 (平成26年度までに、どのような効果をだすか。できるだけ指標と数値で記入) 市立診療所の医療提供体制の充実と経営の安定

DO	
平成21年度事業の実績	(何を対象に、何をしたか) 市立診療所の運営を維持するため、一般会計から国保国営診療所事業特別会計へ必要な経費を繰り出した。
平成21年度事業の効果	(実績により、どのような効果があったか。できるだけ指標と数値で記入) 診療所の医療提供体制を維持し、地域医療の確保に資することができた。

●平成21年度決算

予算科目	歳出		歳入		
	節	金額(千円)	項目	名称	金額(千円)
事業費合計	28	25,000	国庫支出金		
			府支出金		
			起債		
			分担金・負担金		
			その他		
			一般財源		25,000
			合計		25,000

CHECK	
評価	目標達成度・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)が、PLAN(事業の目的、あるいは平成26年度事業の効果目標)の達成に向けて順調に進捗したか ○ 進捗している(できている) ○ ▲ 少し遅れている(少しできていない) 理由 市立診療所の医療体制を確保することができた。 ○ × 遅れている(できていない)
	効率性・・・DO(平成21年度事業の実績、あるいは効果)に対して、コスト削減の余地がなかったか ○ 削減の余地がなかった ○ ▲ 少し削減の余地があった 理由 医療体制を確保することができたが、国の医療費抑制策のもと、診療所の収入となる診療報酬は低く、医師不足の中、診察日を増加することもできず、診療所の経営は厳しい状況にあり、操出金の額を減らすことは難しい。 ○ × 削減の余地があった

ACTION		
改善	事業内容の方向性	
	A A 現状維持	理由 診療所運営には必要な事業である。
	B B 内容の見直し	
	C C 統廃合・休止・終了	
	事業規模の方向性	
	B A 事業拡大	理由 現状の診療所を維持するためには、現予算程度の規模の操出が引き続き必要と考えられる。
B B 現状維持		
C C 事業縮小		